

この通信は、部会の様子をお伝えし、関連する機関のみなさまとの情報共有をめざして発行しています。



平成 28 年 6 月 15 日 **世田谷区自立支援協議会地域移行部会**を開催しました！

区内外から 53 名とたくさんの方に参加していただきました。ありがとうございました。

* この地域移行部会は、毎回テーマを設け、精神科病院に入院している方の地域移行に向けた支援の在り方や課題について検討しています。



*** 今回のテーマ ***

「区内の地域移行支援事業者の現状をふまえ、地域移行の推進を考える」

今回の部会では、区内の地域移行支援事業者の活動報告と、事前に行った区内指定一般相談支援事業所へのアンケート調査から見える、地域移行の現状や課題、地域移行を進めるための多機関との連携について検討しました。



指定一般相談支援事業の活動紹介と事例報告

今回は地域移行支援を行っている指定一般相談支援事業所、「team shien m.a」「MOTA」の方に活動紹介と事例報告を行っていただきました。事例は合計 5 事例で入院期間は 3 年～40 年、内 20 年以上入院されていた方は 3 名でした。

【team shien m.a】

事業所紹介：平成 24 年 4 月から指定一般相談支援事業所となる。元々介護保険の事業者で、障害者の高齢化問題に早くから取り組んでいる。当事者の方の居場所も運営している。

事例報告：2 事例を紹介。病院で面接を重ね食事を一緒に取るところから信頼関係を築き、グループホームの見学、アパート探し等を行う。2 事例について、お二人とも退院し、地域に生活移すことができた。支援を通して感じたことは、関係性ができる中でご自身の話をしてくださるようになったこと、地域での交通機関の IC カードにとっても興味を持たれ嬉しそうにしていたこと等があげられる。

【MOTA】

事業所紹介：法人としては、東京都精神障害者地域移行体制整備支援事業も行っており、病院のスタッフや入院中の方々、家族の方々に地域での生活や当事者の方の体験発表などをする活動を行い、退院への動機付けや地域のコーディネーターとして病院との橋渡しをしている。事業所としては平成 24 年 4 月から指定一般相談支援事業所となる。

事例報告：3 事例を紹介。かわりのきっかけは東京都精神障害者地域移行体制整備事業のコーディネーターより紹介。支援は院内で面接（喫茶店で一緒にお茶をすることも）を重ね、福祉制度の調整と利用のための手続きに同行、グループホームの見学の調整・同行、ケア会議の開催、家族との連絡調整（連絡帳を使用）と家族への支援等を行う。中部総合精神保健福祉センターの一時入所事業を使われた方もいた。3 事例について、3 人とも退院し、地域に生活移すことができた。支援を通じて感じたこととして、以下があげられる。

- ・入院中に比べ、家に帰ると笑顔や言葉が多くみられるのが印象的。
- ・必要な支援やサービスを支援者の思いだけで入れてしまうのではなく、本人・家族の思いや変化を見極めながらゆっくりとサービスを導入することが必要。
- ・本人のペースを大事に。分からないことがあれば本人と確認をしながら行うことが大切。





地域移行の推進にかかるアンケート（抜粋）

平成28年5月に区内の指定一般相談支援事業所7ヶ所にアンケート調査を実施し、すべての事業所から回答いただきました。

開所してからの通算実人数			
地域移行支援給付		地域定着支援給付	
人数	事業者数	人数	事業者数
0人	2ヶ所	0人	4ヶ所
1人	1ヶ所	1人	1ヶ所
3~4人	1ヶ所	2人	1ヶ所
4人	1ヶ所	10人	1ヶ所
9人	1ヶ所		
15人	1ヶ所		
平成27年度の実人数			
地域移行支援給付		地域定着支援給付	
人数	事業者数	人数	事業者数
0人	5ヶ所	0人	4ヶ所
2人	1ヶ所	1人	2ヶ所
4人	1ヶ所	3人	1ヶ所

地域移行を推進するためには何が必要だと思いますか？

- ・ある程度の経験のある人材を安定継続して確保できる財源。
- ・地域の社会資源（住まい）。退院するにあたり住む環境、アパート、グループホームの職員との関係づくり。
- ・移行前からの病院と地域の受け皿との連携。

地域移行・地域定着を進める上で区の課題は何があると思いますか？

- ・事業の基盤が脆弱であり、地域移行に新たな補助がつくことで、事業が推進できる可能性はあり。
- ・多職種連携のノウハウの積み上げ。



グループワークによる意見交換（抜粋）

【感想】

- ・入院中の方は退院意欲が少ないのではと考えていたが、それは違うと気づいた。
- ・事業所、支援者のパワーを感じた。ネットワークや情報の共有、地域移行の支援に関わる人の重要性を学んだ。
- ・退院を考えている人でも将来のことが不安で実行できないこともある。そのために地域移行の体制整備は絶対的に必要である。
 - ・実際に関わるアイデアをもらった。



【地域移行の推進にあたっての現状】

- ・入院の長期化に伴い、退院へのモチベーションが低下している方もいる。そうした方には、支援者との関係作りからはじめている。
- ・退院直前に地域にお願いすることが増えてきている。もう少し長期で関わればよい。（病院ケースワーカー）
- ・入院先が遠方の病院だと交通費がかかってしまい運営を圧迫する。（相談支援事業所）
- ・事業所により方向性・関わり方が違い、上手くいく場合とそうでない場合がある。
- ・公営住宅へのアプローチは困難（空きがほとんど無い）
 - ・アパートを探す場合に、断られる時もある。

【課題】

- ・病院の生活からいかに自力で生活していく力を身に付けられるような支援をしていくかが重要。
- ・相談事業所に対する報酬の問題。
 - ・指定一般相談支援事業所が少ない。もっと増えると良い。
- ・入院先からグループホームへ退院してもらいたいと思うが、課題が多すぎて入れないことが多い。
- ・病院では地域の方が入ってきやすい環境づくりをすることが必要。
- ・住まいの確保。



引き続き地域移行部会では、精神科病院に入院している方への退院促進に向けた支援のあり方や課題を検討していきます。次回も、ぜひ皆様のご参加をお待ちしております。部会で取り上げたいテーマや事例などありましたら、下記までご連絡ください。

